川上 高司 ブログ アーカイヴ

2015年

3月12日

多数派となった共和党の暴走ー内管外憂のオバマ政権

アメリカ議会が単独でイスラエルの首相を議会演説に招待したが、バイデン上院議長は欠席、オバマ大統領も首相とは会わないと拒否して歓迎していないという意志を表明した。だが、その意思表明に怯むことなく多数派となった共和党はますます勢いを増している。

なにしろ共和党上院議員がイランの指導者に向けて手紙を送ったのである。その内容は、現在オバマ政権が進めいているイラン核交渉について「アメリカ議会は断固として阻止する」というものだ。この手紙には 47 名の共和党議員が署名した（7 名は署名を拒んだ)。

議会が大統領や国務長官に外交政策について異議を唱えたり、上院で決議をすることはあった。ネタニヤフ首相を招待したのも 100 歩譲って許容できた。だが議会が直接外国の指導者に、現政権の外交交渉を阻止するという意志表明をしたのは前代未聞だろう。 議会の歴史専門家によれば「およそアメリカ議会創設以来初めてのことであり、おそらく今後 200 年間は起こらないであろう」ほどの、衝撃的な手紙と受け止められている。

イランは核交渉を進める一方で、ISIS との闘いにおいてイラクでは存在感を高めている。イラン革命防衛隊の支援を受けてイラク軍は ISIS の支配地を奪回しつつあり、イランの支援なくしては ISIS の勢力を止めることは不可能という現実がある。そうなればこの地域でのイランの影響力が増すことは間違いない。共和党の危惧は中東地域でのイランの存在感が増すことにある。

ケリー国務長官は「イランの影響力が拡大しないように気を配っている」と釈明し、ディンプシー統合参謀本部議長は、「ISIS に対抗できる力があるなら誰が（ISIS との戦闘を）やってもいい」と、さらに現実的だ。

ISIS 問題がシリアやイラクなど外交政策の問題ではなく議会との確執という国内問題に転換すれば、アメリカの外交政策はますます迷走し国際社会も影響を受ける。残り 2 年はオバマ政権にとって想像以上に厳しいものになりそうである。

3月17日

現実的にならざるを得ないアメリカーアサドとケリー

ケリー国務長官が 15 日のアメリカ CBS ニュースのインタビューで、シリアの内戦が 4 年目を迎えるにあたり、「政治的な問題について交渉の余地あり」と爆弾発言をした。この発言が波紋を呼んでいるのは、アサド大統領の退陣を求めているアメリカがアサド大統領の存続を認める方針に転換したのではないかとも取れるからである。

この発言を受けてアサド大統領はすかさず、「国際社会の変化は歓迎する」とのコメントを出し、「国際社会が動き出すのを待ち望んでいる」と前向きな姿勢を示している。

アメリカの態度が少しではあるが明白に変化を見せ始めたのは、ISIS の存在がある。イラクからシリアにわたって勢力を伸ばし国際的な脅威となっている ISIS を押さえ中東を安定させるにはアサド大統領の力が必要であること、アメリカが派兵を回避する一番現実的な方針はアサド政権を存続させることであるとオバマ政権が認めて動きだしたのである。

国内の問題も無視できない。共和党がイランの指導者にオバマ政権の外交交渉を否定するという手紙を送ったが、オバマ政権にとってイランとの関係が悪化することは絶対に避けたい。イランとの関係が良好なうちにシリア問題を解決したいという気持ちになるのは当然だろう。さらにイランの協力は ISIS との闘いにおいてももはや不可欠である。

国務省は「ケリー長官はアサド大統領と交渉するとは言っていない」とコメントして、波紋を鎮めようと躍起になっている。フランスは「我が国の立場は変わらない」、トルコは「アサドが問題の元凶」との厳しい立場を明確にした。

ケリー長官はインタビューで、「いつかは折り合わなくてはならない」と前進する姿勢をはっきりと示した。結果を出すためならアサド大統領とも交渉する、冷徹な現実主義者であるオバマ大統領の真価が発揮されようとしている。